

○一般撮影件数（2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
外来	679	696	729	678	672	910	650	609	615	705	749	688	8380
入院	81	79	92	79	96	79	81	86	64	66	74	87	964
合計	760	775	821	757	768	989	731	695	679	771	823	775	9344

（考察）

2024 年の一般撮影の合計は 9797 件、月平均は 820 件であった。

2023 年と比べて一般撮影件数は増加した。（443 件）

○胃透視・注腸・DIP 撮影件数（2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
胃透視	外来	1	0	0	11	5	0	0	0	0	0	0	0	17
胃透視	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨密度	外来	0	0	36	59	22	10	6	13	7	9	25	10	197
骨密度	入院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2

（考察）

胃透視は全て健診であった。

2024 年より胃カメラ検査が廃止となったために春の健診時期の胃透視件数が一時的に多くなった。

注腸検査は本年も 0 件であった。

2024 年 3 月より骨密度装置が導入された。

○OCT 撮影件数（2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

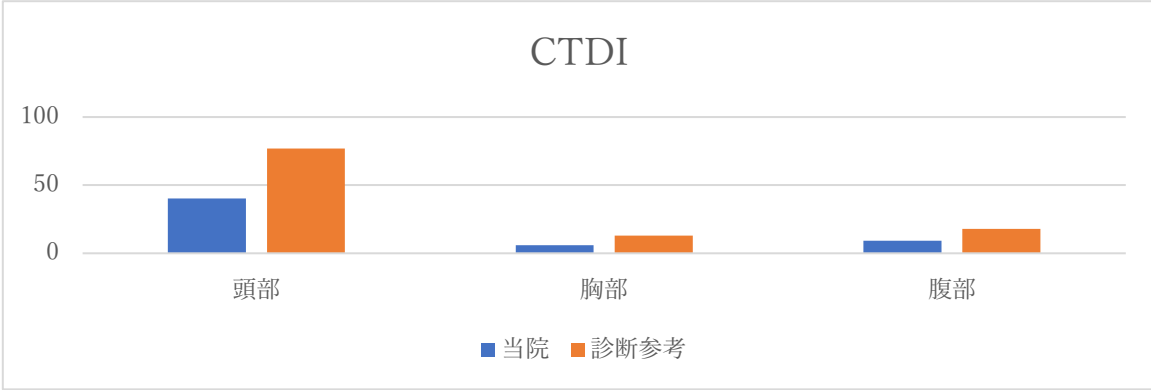
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
外来	125	98	112	107	137	120	120	124	100	180	133	127	1483
入院	23	28	33	16	35	26	45	49	32	25	17	39	368
合計	148	126	145	123	172	146	165	173	132	205	150	166	1851

（CT 撮影に関する考察）

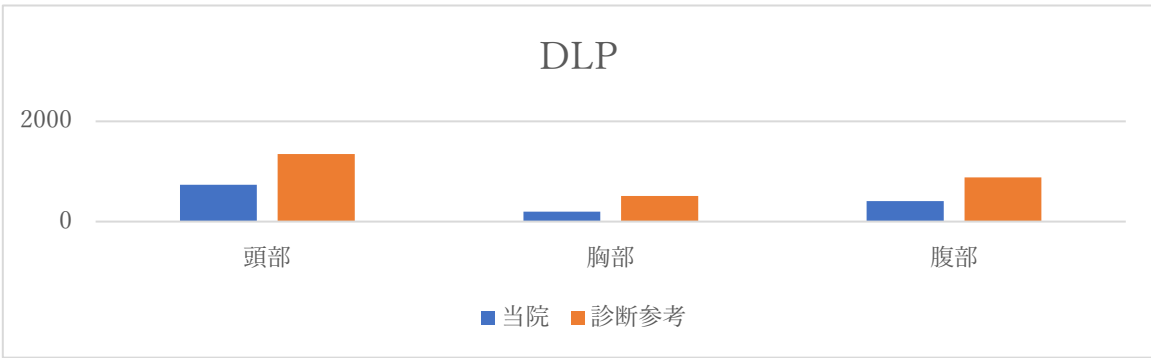
前年より 241 件増加した。（外来 190 件増・入院 51 件増）コロナ前の状況に戻りつつある。

当院での CT 撮影による被ばく線量(2024 年)

CTDI (mGy)	当院での年間平均	日本の診断参考レベル
頭部ルーチン	40.3	77
胸部 1 相	5.9	13
腹部～骨盤	9.2	18
腹部～骨盤 (3 相)	52.1	54



DLP (mGy・cm)	当院での年間平均	日本の診断参考レベル
頭部ルーチン	733.9	1350
胸部 1 相	197.7	510
腹部～骨盤	405.8	880
腹部～骨盤 (3 相)	1745.2	2640



2024（令和 6 年）1 月 1 日から 12 月 31 までの 1 年間の統計です。

腹部～骨盤（3 相）は標準体形 2 件の平均です。

全ての項目において標準体形を基準としています。

各部位（腹部～骨盤 3 相）を除く各月 20 件を無作為に抽出しています。

当院では高齢者の撮影が多いため日本の診断参考レベルよりかなり被ばく線量が少ないと考えられます。

日本の診断参考レベルは Japan DRLs 2020 を参考にしています。

CTDI とは医療用 CT 検査における被ばく線量を評価するための指標です。

DLP とは、CTDI に撮影範囲の長さを掛けたもので、「mGy・cm」単位で表され、検査全体の線量積を評価するのに用いられます。